

学校教育目標		6年度重点目標	成果と課題	改善策・向上策
日本国憲法の精神に基づき心身の調和的発達を図るとともに、将来社会の発展と文化の創造に寄与できる人間を育成する。		1 一人ひとりの進路実現に向け、学力の定着と主体的、探究的な学習のための授業改善をはかる。	各教科で、単元ごとのテストを行ったり、授業の振り返りシートを利用して自身の学習に目を向けさせる取り組みを行っている。教科間での共有を図り、今後の取り組みにつなげていきたい。	ICT機器の導入や観点別評価が生徒の学習意欲の向上につながるよう、互見をしやすい環境をつくり、教科間の情報共有を図りながら、研究していきたい。
重点目標（中長期的）		2 心身の健康や安全に対する意識を高め、健康の保持促進を図れる環境を整える。	日々の声掛けに加え、行事などをとらえ通信文書を発行し、感染症拡大予防や健康の保持促進について考える機会をつくってきた。行動として実践できており、継続していきたい。	日々の感染予防対策について今後も継続をすすめるとともに、生徒の置かれている状況にあった課題を捉え、継続して学習していく機会を設けていきたい。
地域から信頼される学校 生徒の進路を保証する学校 全人的発達を促す学校		3 豊かな人間性、生きる力を育てると共に、いじめや体罰のない安心安全な環境を確立する。	問題を抱える生徒に対し、相談体制を整え対応するとともに、文化祭をはじめとする行事等を通して生徒同士の協働の中で、互いの理解を深めることができている。	ネットを介したトラブルや本人が意識せず他人を傷つけてしまうケースが見られたことから、SSTなどを計画的に位置づけるとともに、授業やHR活動などにおいて実践の場を設けていきたい。
		4 家庭・地域・社会との連携を強化し、地域の活性化に貢献していく。	「総合的な探究の時間」や「インターンシップ」「ボランティア班・軽音楽班の活動」など地域との連携を強化し活動の幅を広げている。継続的な活動として体制を整えていきたい。	地域の方々との活動を充実させていくとともに、地域連携に係る組織作り定着し、地域探求活動やインターンシップなど連携を強化していきたい。
教育活動	6年度重点目標	評価項目	成果と課題	改善策・向上策
	1 一人ひとりの進路実現に向け、学力の定着と主体的、探究的な学習のための授業改善をはかる。	高校3年間を見通した進路指導の構築。各生徒が希望する進路の実現。 生徒の学習意欲・学力向上につながる教育課程および授業づくりに向けた取り組み	生徒の希望する進路決定が行えた。総探と運動させながら指導を行う枠組みを整備し、年度末の成果発表会等を通して、生徒の進路意識を醸成できた。また生徒支援係と進路係が連携のあり方が検討できた。 教育課程および授業づくりについて、計画通り実施している。生徒にとってより良い授業が提供できるように、引き続き研究を進める。	生徒が低学年から自らの適性を冷静に考えていく指導体制を継続的に検討する。進路実現に求められる広義の学力形成にむけて、学校組織としてどのように取り組んでいくか検討する。 各授業や教育課程について、今後も生徒の状況や学校のあり方に合わせて研究・検討・研修を行っていく必要がある。
	2 心身の健康や安全に対する意識を高め、健康の保持促進を図れる環境を整える。	小海高校オアシス化計画とホウレンソウを推進しながら生徒の心身の健康や安全についての観察を行う。 健康の保持増進のための活動の充実	オアシスをきっかけにして学校全体で声を掛け合うことで、自然と危機管理意識が高まり、精神的な健康の保持促進につながる環境整備ができつつある。 健康生活をおくるための基本である健康診断も、内科・尿検査・心臓や結核検診(1学年のみ)の受診率は100%となる。感染症対策についても、気を緩めず継続実施することが課題でもある。	生徒支援通信を通じて、小海高校オアシス化計画を次年度もさらに続ける。 健康生活を送る上で大切なことは、自分の健康や生命は自ら守り、育てていくことである。そして周囲への心配りをしながら、変化や異変に「気づいて差し上げること」でもある。生徒達の健全な心身の育成のために、引き続き、関係部署と連携を強化し、取り組んでいきたい。
	3 豊かな人間性、生きる力を育てると共に、いじめや体罰のない安心安全な環境を確立する。	いじめなど人権侵害の予防、心に寄り添う相談活動の充実 生徒会による生徒主体の活動の推進および、多様な他者との協働による活動内容の充実 人権意識の向上	援助面では、SC、SSW等のつながりを強化し迅速につなげる体制づくりができた。指導面では、本校の改善指導を主軸に予防的観点から諸問題について対応できた。 生徒たちの主体性が存分に発揮され、文化祭等の生徒会行事が成功した。また、校則についての議論もなされた。引き続き、生徒たちが主体的に活動できるように支援する。 高校人権教育研修・連絡協議会の研修内容(発達障がいの理解と支援)を職員間で共有した。10月に全校での人権教育を実施。	いじめ・不登校など悩みや問題を抱える生徒が今後も増加する予想があり、次年度は更に担任や生徒支援係、カウンセラーなどと連携を図り、解決に向けた支援の体制づくりを構築する。 生徒たちが自ら考えて行動し、積極的に新しいことに挑戦できるように、また、安全に活動がおこなえるように、ひきつづき職員全体で支援していきたい。 本校の生徒の実態に基づいた人権教育を次年度も継続して実施したい。
4 家庭・地域・社会との連携を強化し、地域の活性化に貢献していく。	PTA活動の充実 生徒募集に係るPR活動の充実 地域に対する学習や地域の活動へ積極的に参加する。	年度当初に会則改正を行い、さらに活動のスリム化を図った。行事はPTAバザーを盛大に行うことができ、次年度への課題も明確になった。 HPを通して情報提供の充実にも努めた。7月に南佐久地域の中学校を中心に訪問し、体験入学の参加者が増加した。今年度も10月に中学生や地域に向けて授業公開を実施する。 地域連携のもとインターンシップや総探の成果発表会を実施できた。クラブ活動を含め多方面にわたり地域の事業所等のご協力をいただき、生徒の学習の場を広げることができた。	次年度以降の活動をスリム化し役員の負担軽減につなげることができた。次年度以降は役員選出方法について役員から意見をいただき検討していきたい。 本年度は積極的にプレスリリースを行なったが、次年度以降もHPを中心に外部への情報発信を重ねるとともに、体験入学や授業公開の内容の充実を図っていきたい。 現行の地域連携体制について検証し、より効果的で効率的な在り方を引き続き検討していく。	